

私立女子校におけるキャリア教育

-学校種別にみるキャリア教育の課題-

総合政策学部 4年 中村珠希

70906121(s09612tn)

「私立女子校におけるキャリア教育 -学校種別にみるキャリア教育の課題-」

本稿は私立女子校におけるキャリア教育の検討を目的とした研究である。根底には「女性の生き方の再検討」という著者の問題意識があり、それを学校種別のキャリア教育の現状を調査することによって紐解いていく試みである。キャリア教育および私立女子校を簡単に概観した後、私立女子中学校・高等学校を4つのグループに分類し、それぞれのキャリア教育の調査報告を述べ、分析・考察を行った結果をまとめる。本稿が、内容や、それそのものの存在意義にすら疑問を投げかけられるキャリア教育の問題発見、そして解決に繋がることを期待する。

まず第1章ではキャリア教育の起源とその変遷についての調査報告を行う。1915年(大正4年)にアメリカのボケイショナル・ガイダンスを職業指導として翻訳し、紹介されたのが発端というキャリア教育が、戦争などの時代背景とともにどのように変化したのか。また現在のキャリア教育の定義や目的:「基礎的・汎用的能力の育成」について触れる。

次に第2章では現在日本に存在する私立女子学校についての基礎知識(数、分布、宗教的側面)を紹介する。また、4分類の際に重要な基準となる初年度納入費と偏差値の調査報告を行う。この2つには穏やかな相関関係があること、キャリア教育の調査をこの4分類を基準として使用することを記している。

第3章は、本稿のメインピックと言える。前章で紹介した基準をもとに1群(偏差値低い×初年度納入費高い)、2群(偏差値低い×初年度納入費低い)、3群(偏差値高い×初年度納入費高い)、4群(偏差値並み×初年度納入費低い)に分類する。さらに各グループから6校ずつ学校を抽出し、キャリア教育に関しての調査を行う。調査内容は「場所」「設立年」「偏差値」「学校の種類(置かれているコースや宗教など)」「目的」「期間」「方法」「進路先」である。これらの調査結果を分析し、まとめる。

結論の章では、分析結果をもとに考察を行う。ここで述べることは3つである。1つ目にキャリア教育の位置づけに関して、次にキャリア教育と教育資金の関係に関して、そして最後に理想的なキャリア教育に関してである。位置づけでは「キャリア教育」という概念が学校種別に異なる点を指摘し、時に他校との差別化の手段として利用されるということを述べる。教育資金との関係では、教育資金が豊富な学校とそうでない学校との内容の差の存在を示し、学校別の支援の必要性を述べる。3つ目に全体の考察を踏まえて、理想的なキャリア教育とは計画性を育むもので、これを基盤として学校種別に工夫が必要であることを主張する。教育資金、女性のライフプランを指導する際の注意点、キャリア教育の内容(方法)など、理想的なキャリア教育を遂行するために課題となるものについても言及しながら、結論付ける。

キーワード: 女子校/キャリア教育/学校種別/偏差値/初年度納入費

目次

1. 序論

- 1-1 研究背景
- 1-2 先行研究
- 1-3 研究目的
- 1-4 研究対象と調査方法

2. 本論

<第1章> キャリア教育とは

- 1-1 キャリア教育の背景
- 1-2 現在の日本のキャリア教育
- 1-3 小結

<第2章> 私立女子校概観

- 2-1 私立女子校の特徴
- 2-2 私立女子校の偏差値・初年度納入費の調査
- 2-3 小結

<第3章> 私立女子校のキャリア教育への取り組み

- 3-1 1群(偏差値低い×初年度納入費高い)の調査報告と分析
- 3-2 2群(偏差値低い×初年度納入費低い)の調査報告と分析
- 3-3 3群(偏差値高い×初年度納入費高い)の調査報告と分析
- 3-4 4群(偏差値やや高い×初年度納入費低い)の調査報告と分析
- 3-5 小結

3. 結論

- 1-1 事例の考察：理想的なキャリア教育とは
- 2-2 本稿のまとめ

<資料>

<謝辞>

<参考文献>

1. 序論

1-1 研究背景

女性を取り巻く環境は（男性のものも同じくそうであるが）近年大きく変化を遂げている。1980年頃にピークを迎えた日本の専業主婦世帯率は、1990年頃には共働き世帯率が専業主婦世帯率を上回っている。また国立社会保障・人口問題研究所が2011年末に発表した「単身女性の3人に1人が貧困」という統計結果により話題となったニュース²が数多くある。このような厳しい時代背景をうけて、今後日本女性はどのような生き方をしていくべきなのか。

著者が日本女性の生き方に興味を持ったきっかけは、大学2年生の時に参加した青年国際交流事業での、チリ・メキシコ・スウェーデンのパワフルな女性達との出会いに因る。日本を含む13か国の代表が集められたこの事業。文字通り、諸外国の代表者は熱意に溢れ、意見をしっかりと持っており、レベルが高いように思えた。しかしながら、著者自身はと言うと、他国の魅力的な女性と比較することで全く何も出来ない自分を認識し、焦燥感に駆られたのであった。小学校から高等学校まで関西の私立女子学校で基督教の一貫教育を受けた後、慶應義塾大学に入学したということもあり、自分が一人の「女性として」生きていくことに固執していたことも関係しているだろう。このようなきっかけから、著者の根底には急速に変化する社会でのこれからの生き方の再検討、という志が芽生えた。

この大きなテーマを紐解くフィールドとして選んだのが、自らが12年間を過ごし、日本全国でも約8万5千人が通う「女子校」、そして教育の視点から子供のキャリアを考えるために打ち出された政策「キャリア教育」である。1999年の中央教育審議会答申を発端とする「キャリア教育」は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。子供・若者一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てることを目指す」³という定義のもとに検討が進められてきた。しかしながら、その実態はまだまだ改善の余地があると言えよう。角田（2011）⁴は全国の全日制高校4981校(有効回答数1208校)にアンケート調査を行い、キャリア教育の現状を調査した。結果「キャリア教育の意味が分からない」と答えている教員は2006年から2010年の間に52.8%から5.2%へと減少している一方で、取り組みに対して「非常に難しい」「やや難しい」と答えている教師が93%であることを明らかにした。ここでは時間や予算の不足、教員の負担の大きさを課題として挙げている。

上記はキャリア教育の抱えるほんの一部の課題であるが、本研究で私立女子校におけるキャリア教育

¹ Garbage NEWS.com (2010) 『雇用不況で共働きにも変化が?…共働き世帯の増え方をグラフ化してみる』 <<http://www.garbage-news.net/archives/1500591.html>> (2013/7/16 アクセス)

² 朝日新聞デジタル (2011) 『単身女性、3人に1人が貧困 母子世帯は57%』 <<http://www.asahi.com/special/08016/TKY201112080764.html>> (2013/7/16 アクセス) や日本経済新聞 (2012) 『単身女性の32%「貧困」、男性は25% 人口問題研 20~64歳』 <http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG08001_Y2A200C1CR0000/> (2013/7/16 アクセス) など。

³ 文部科学省 『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申案)』 <http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1300202.htm> (2013/7/16 アクセス)

⁴ 角田浩子 リクルート(2011) 『高校のキャリア教育の現状』 <http://souken.shingakunet.com/college_m/2011_RCM168_38.pdf> (2013/7/16 アクセス)

を探ることで、キャリア教育の内容や、それそのものの在り方の改善に貢献したい。それが結果として女性の生き方の再検討に繋がれば嬉しい。

1-2 先行研究

キャリア教育に関する議論は大きく分けて二つある。一つ目にキャリア教育が必要か否かの議論、二つ目にキャリア教育の内容に関する議論である。

一つ目のキャリア教育が必要か否かの議論に関しては、本田（2005）の議論を紹介したい。本田は教育には3つの意義⁵「即自的意義」「市民的意義」「職業的意義」があるとし、職業的意義を高めるための政策として導入されたものの一つに、キャリア教育を挙げている。現在のキャリア教育に関しては非常に批判的だ。若者の「意識や態度を滋養すること」ばかりに焦点が置かれており、「職業的な知識や技能を与えると云う観点が弱すぎる」と指摘している。さらにノンエリートだけではなく、「いわゆるエリート的な仕事につながる分野についても…同様の教育内容が提供されるべきである」と述べている。これはエリート的な仕事につながる分野にいる人たちがノンエリート層を卑下する可能性を恐れての指摘である。

二つ目のキャリア教育の内容に関しては、発達心理学や教育心理学からの知見を取り入れている浦上（2010）の議論⁶を紹介したい。浦上はキャリア教育を「現在は目的や方法の検討よりも、導入を急いでいる状況…目的や方法の検討が十分になされないままでの導入は、徒労に終わる可能性を高めてしまう」と危機意識を示した上で、持論を展開する。「人間として望ましい発達を支援するもの」がキャリア教育であると据えて、「個性化（個人化）と社会化」の両面の「育成と調和を目指して行わなければならない」と提言する。個性化と社会化の両側面からの意見を述べているものの、現状のキャリア教育に対する解決策の提示までには至っていない。

このように、現在のキャリア教育の在り方や内容に関しては批判的な意見が多く見受けられ、改善の必要性が度々指摘されている。1999年に初めてキャリア教育という言葉が登場して以来、その概念は様々な解釈を生み、内容や目的、方法の検討が十分になされないまま、導入へと先走っているようである。確かに様々な批判があり、中には存在そのものを否定するものもある。しかしながら、著者は未だキャリア教育の内容改善に可能性を感じている。川口（2006）は効果のある学校⁷に関して研究を行っており、日本における効果のある学校の特徴として「学習への専心」や「教室の雰囲気」が関係していることを明らかにし、「学習集団づくり」の手法の再検討を提案している。著者はキャリア教育の場合も、この研究と同様、効果的な手法があると推測している。

効果的な手法を探るには、キャリア教育が導入されている学校や、その方法について分析する必要があるだろう。生駒俊樹（2010）『実践 キャリアデザイン 高校・専門学校・大学』など、特徴的な学校を抽出し、ケーススタディとして紹介している研究は既に存在する。しかしながら、女子校と言う特

⁵ 「2つの互いに区別されるもの（たとえば教育と仕事）の間に関係のあり方、あるいは関係の有無自体を検討の俎上に挙げようとする姿勢を含意した概念」本田由紀（2005）『若者と仕事「学校経由の就職」を超えて』東京大学出版会

⁶ 浦上昌則（2010）『キャリア教育へのセカンド・オピニオン』北大路書房

⁷ 「「効果のある学校」とは「社会的・経済的に不利な立場に置かれやすい層の子どもたちの学力を保証している学校」のことである。」川口俊明（2006）『学力格差と「学校の効果」－小学校の学力テストの分析から－』『教育学研究』第73巻第4号、350-362頁

定のフィールドを専門学校、ミッションスクール、進学校、普通学校などの学校種別に全体像を掴み、分析し、調査を行っている研究は著者が見る限り見当たらない。本稿は私立女子中学校・高等学校を学校種別に分類し、それぞれのキャリア教育の在り方を調査することで、キャリア教育で本当に必要とされている能力は何か、そのために何が必要で、何が課題となるのかについて調査する。

1-3 研究目的

私立女子中学校・高等学校におけるキャリア教育の実態を学校種別に調査することによって、キャリア教育の課題を明らかにし、その課題解決に貢献することを目的とする。学校種別で調査することで、これまでなされてきたキャリア教育の必要性についての議論、さらに内容に関する議論を越え、キャリア教育の実態を明らかにしていく。

1-4 研究対象と調査方法

研究対象は以下のとおりである。ブルデュー（1990）⁸の文化資本や社会関係資本が階層によって再生産されるという再生産理論に影響を受け、階層的・経済的要因として初年度納入費、文化資本として偏差値を基準として4つのグループに分類した。また対象校を私立女子中学校・高等学校に定めたのは、著者自身が馴染みのあるフィールドであったことに加え、公立学校がインターシップや外部から講演者を招待することでキャリア教育として収めているケースが多く、研究の幅が限定されてしまうことを考慮したためである。

研究手法は主に文献調査、インターネット、雑誌を使った調査である。

◆1群(偏差値低い×初年度納入費高い)

- ・足利短期大学附属高等学校
- ・奈良女子高等学校
- ・大阪成蹊女子高等学校
- ・京都精華女子中学校/高等学校
- ・中村中学校、高等学校
- ・白鵬女子高等学校

◆2群(偏差値低い×初年度納入費低い)

- ・柴田女子高等学校
- ・進徳女子高等学校
- ・函館白百合学園中学校・高等学校
- ・藤ノ花女子高等学校
- ・鈴峯女子中学校・高等学校
- ・浜松海の星高等学校

◆3群(偏差値高い×初年度納入費高い)

⁸ ピエール・ブルデュー（1990a）『ディスタンクシオンⅠ』藤原書店、——（1990b）『ディスタンクシオンⅡ』藤原書店

- ・学習院女子中等科・高等科
- ・女子学院中学校・高等学校
- ・品川女子学院中等部・高等部
- ・法政大学女子高等学校
- ・田園調布学園中等部・高等部
- ・日本女子大学附属中学校・高等学校

◆4群(偏差値やや高い×初年度納入費低い)

- ・山梨英和中学校・高等学校
- ・大阪聖母女学院中学校・高等学校
- ・仙台白百合学園中学・高等学校
- ・大阪信愛女学院中学校・高等学校
- ・不二女子高等学校
- ・宇都宮海星女子中学校・高等学校

対象校を定めるため、まず全国の女子中学校・高等学校⁹292校（公立校、女子クラスが一部あるだけの学校、男子クラス併設校は除く）の種類(商業校、工業校、専門学校、ミッション校、進学校、普通学校など)や、分布、特徴、偏差値、初年度納入費を、各校のホームページ、パンフレットなどで調査した。さらに偏差値と初年度納入費の相関関係をグラフとして可視化した(第2章2-2-1で説明させていただく)。

このグラフを利用し、上記の4つのグループに分け、その中からランダムで6校ずつ抽出した。その後、各校のホームページ、パンフレット、雑誌などを頼りにキャリア教育の現状を調査した。調査内容は「場所」「設立年」「偏差値」「学校の種類（置かれているコースや宗教など）」「目的」「期間」「方法」「進路先」である。最後にそれぞれの傾向や特徴について考察し、キャリア教育の在り方について検討を行った。

⁹主に、全国にある女子高等学校を対象としている。しかしながら私立女子校の中には中学校から高校の六年間の一貫教育を行っている学校も多数存在する。そのため、中学校および高等学校の六年間の一貫教育を行っている学校を取り上げているケースもある。

2. 本論

本論では、キャリア教育および私立女子校の概観を簡単に述べる。その後、私立女子中学校・高等学校を4つのグループに分類し、各グループから6つずつ学校をランダムに抽出、それぞれの学校のキャリア教育への取り組みを調査した報告を行う。

<第1章> キャリア教育とは

1-1 キャリア教育の背景

キャリア教育は職業指導の前身とする。その姿は時代の変遷と共に目的、手法、内容を変化させてきた。本題に入る前に、キャリア教育の変遷の概略を記す。

吉田辰雄（2005）によると¹⁰、キャリア教育は1915年（大正4年）に、当時、東京帝国大学教授の入澤宗寿が著書「現今の教育」でアメリカのボケイショナル・ガイダンスを職業指導と翻訳して紹介したのが最初であると言われている。アメリカからその思想が輸入された当時は、児童相談、職業相談として活動が始まった。文科省では職業指導を正式に学校教育に導入することを昭和2年11月に訓令という形で通達した。

戦時体制下に入ると、児童には職業の国家的要請へ適合するように求めるようになり、職業指導は国家主義的色彩を帯びてくる。さらに昭和16年に第二次世界大戦が開始してから、それまでの小学校が国民学校となり、職業指導は完全に国家体制に組み込まれた。

しかし戦後は「民主主義の確立をめざして教育の大改革」が行われる。中学校の職業指導では「職業科」が教科として導入された。その後「技術・家庭科」として科目内での指導の推進、進路指導が教科から独立して特別教育活動として明確に位置づけられ「個性の伸長を助ける」、「将来の進路を選択する能力を養う」ことを進路指導の達成目標になるなど、度重なる学習指導要領の改訂により職業指導は進路指導へとその姿を変えていく。

昭和56年には「生涯教育」という言葉が出現する。「生涯教育について」という答申では、中学校や高等学校において「生徒が正しい勤労観や職業観を身に付け、将来社会人としてあるいは職業人として、よりよい生き方を見出し、自らその進路を選択することが重要である。そのためには、生徒に対して将来の進路設計や職業に関する適切かつ具体的な情報を提供したり、職業についての理解を深めるための体験の機会を与えることが大切であり、また、個別の進路相談にも応じられるような工夫が必要である」と指摘されている。さらに昭和58年には中央教育審議会答申「教育内容等小委員会審議経過報告」に「生き方」の指導という言葉が発見することが出来る。こうして「生き方」の指導に関して改定が重ねられた。ここ言う「生き方」とは意欲的・主体的に人間としてどう生きるかや、倫理的価値のみを意味するのではなく、学習や生徒個人の進路のための学習指導の展開の意も含まれている。

キャリア教育という言葉が登場したのは1999年（平成11年）12月に中央教育審議会が「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の答申が発端である。この答申によって、日本において本格的にキャリア教育への取り組みが始まった。以後、度重なる答申の発表や言葉の再定義、職業体験やイン

¹⁰ 吉田辰雄（2005）『キャリア教育論—進路指導からキャリア教育へ』文憲堂

ターンシップの推進などにより、改善が図られている。

1-2 現在の日本のキャリア教育

現在のキャリア教育は2011年（平成23年）に「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる事を通して、キャリア発達を促す教育。子供・若者一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てることを目指す」と再定義され、その推進が行われている。それまでキャリア発達に関わる能力として4領域8能力の育成が謳われていたキャリア教育であるが、中央教育審議会で「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリア・プランニング能力」からなる「基礎的・汎用的能力」育成の必要性が主張されている。

1-3 小結

第1章ではキャリア教育の起源とその変遷について述べた。職業教育を発端とするキャリア教育は、時代の変化と共にその姿を変えてきた。時に国民を国家的要請に従わせるために使われたが、民主主義が推進されるようになった戦後は生涯教育として「生き方」の指導を位置づけられている。現在は主に「基礎的・汎用的能力」の育成を目的としており、前身では色濃かった職業教育的な要素は以前と比べると薄いだらう。キャリア教育の変遷を考察すると、適材適所を基本とする職業紹介・職業相談などという具体的なものから、「生涯教育」「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリア・プランニング能力」といった抽象的な議論が多くなっている様子が伺える。このような目的のもと、実際にはどのようなキャリア教育が行われているのか。第3章では実際に学校を取り上げながら詳しく述べる。

<第2章> 私立女子校概観

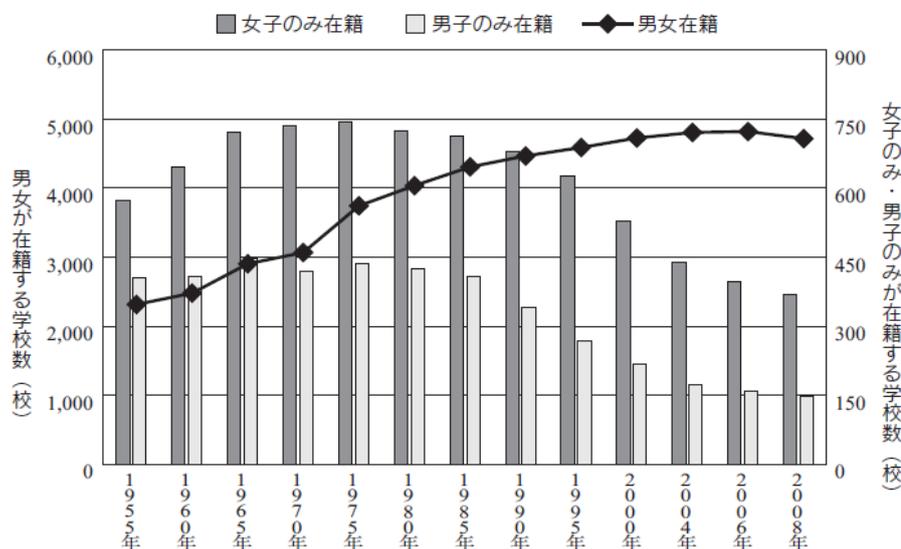
2-1 私立女子校の特徴

全国の女子校について、基礎的知識を記す。本章で取り上げたのは、数、分布、宗教的側面である。

-女子校の数-

学校数は2011年の時点で川村学園、白百合学園、田園調布雙葉小学校附属幼稚園の3校、続いて女子小学校が25校、中学校が207校、高等学校が334校、女子大学が74校である。現在小学校から存在する女子学校25校全ては、エスカレーター方式で中学校・高等学校に連携している。全体的な女子校の数でみると、年々減少傾向にある。

表1 男女が在籍する学校数の推移



(尾崎博美(2009)「GEMC journal」『男女共学・男女別学をめぐる議論の課題と展望—教育目的・内容を構築する視点としての「ジェンダー」に注目して』pp.42-50 東北大学より)

-女子校の分布-

分布は主に首都圏や大都市に広がっている。東京都に89校、神奈川県に27校、大阪府に25校、兵庫県に20校であり、これは全体の55%ほどである。その他45%は各都道府県に少しずつ散らばっている。また首都圏（東京都、神奈川県、千葉県）にある学校は全体の42%にもものぼる。大都市や首都圏における私立女子校の競争率は非常に高いと言えるだろう。

また偏差値と分布の関係をみると、偏差値上位校にランクインしていた学校はいずれも首都圏や大都市にあるものが多いことが分かる。上位校50校の内訳は東京都28校、神奈川県8校、愛知県3校、大阪府・京都府共に2校、兵庫県・三重県・広島県・千葉県・高知県が1校ずつである。次に下位校を見てみると東京都7校、兵庫県・大阪府共に6校、千葉県2校、神奈川県・愛知県共に1校であり、その他27校は全て地方に散布している。

-女子校の宗教的側面-

宗教に関して言えば対象の 292 校の内、キリスト教が 107 校（全体の 36%）、仏教が 19 校（全体の 6%）であり、その他 166 校（全体の 58%）は無宗教である。（図 1 参照）またファッション、デザイン、情報ビジネス、音楽、パティシエ、演劇、美術、食物、看護、介護等を含めた専門系は 86 校（全体の 30%）存在し、その内キリスト教である学校は 2 校、仏教である学校も同様に 2 校であった。

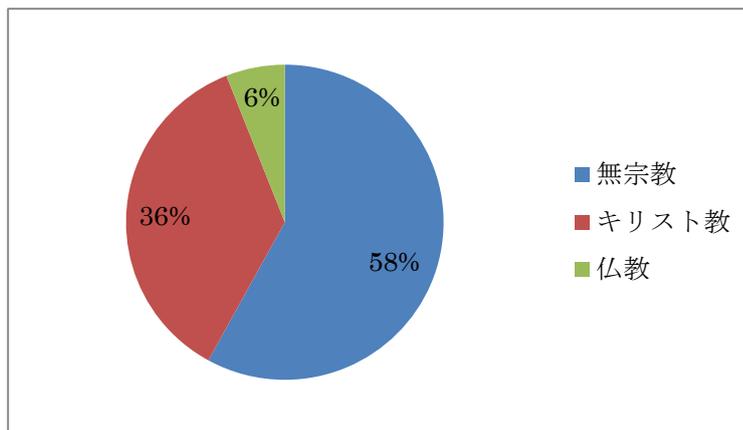


図 1.私立女子校における宗教分布

2-2 私立女子校の偏差値・初年度納入費の調査

次に本題で重要なグループ別調査の指標となる「偏差値と初年度納入費の調査」を報告する。これは全国にある女子校の全体像を把握するため、経済的要因と偏差値の相関関係を探ろうと試みた調査だ。初年度納入費と偏差値を基準として選択したのは、ブルデュー（1990）¹¹の階層を再生産する文化資本、社会関係資本の思想に影響を受けたからである。このデータを基準とし、全国に存在する多様な女子校を分類できると考えた。

対象となるのは全国的女子中学校・高等学校¹²292校（公立校、女子クラスが一部あるだけの学校、男子クラス併設校は除く）である。各校の初年度納入費と偏差値を Web ページ¹³や各校のホームページ、『2013年入試用有名私立女子校&共学校（首都圏版）』（学研教育出版編、2012）を用いて調査した。経済的要因の基準は初年度納入費に置くことにし、それと対応させて偏差値を使用した。結果、現れたグラフが以下のものである。（図 2）

¹¹ ピエール・ブルデュー（1990a）『ディスタンクシオン I』藤原書店、——（1990b）『ディスタンクシオン II』藤原書店

¹²主に、全国にある女子高等学校を対象としている。しかしながら私立女子校の中には中学校から高校の六年間の一貫教育を行っている学校も多数存在する。そのため、中学校および高等学校の六年間の一貫教育を行っている学校を取り上げているケースもある。

¹³合同会社ジーナス（2012）「高校受験ナビ」<<http://www.zyuken.net/term/gakuhi/>>（2013/7/16 アクセス）

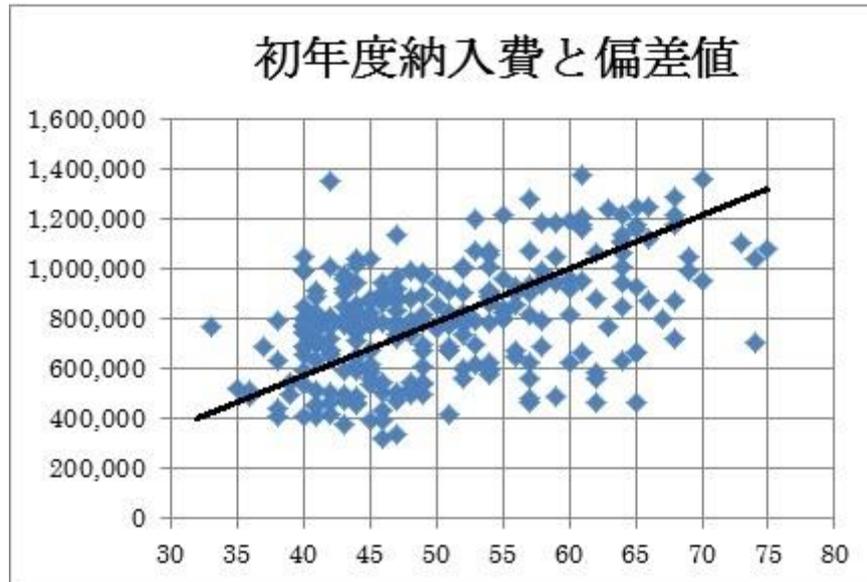


図 2.初年度納入費と偏差値の関係

縦軸を初年度納入費、横軸を偏差値として可視化したところ、多少右肩上がりの傾向がみられた。また上位校と下位校 10 校に焦点をあわせた場合、納入費が高いところほど偏差値が高く、低いところほど偏差値も低いという、納入費と偏差値との間に若干の相関関係がみられた。私立女子校という公立学校とは異なりある程度の教育費がかかるフィールドにおいても、上図のように経済的要因と文化資本である偏差値は緩やかな相関関係があると言えるだろう。

私立女子校のキャリア教育への取り組みを調査する際には、上図のデータを 4 分割し、1 群（偏差値低い×初年度納入費高い）・2 群（偏差値低い×初年度納入費低い）・3 群（偏差値高い×初年度納入費高い）・4 群（偏差値やや高い¹⁴×初年度納入費低い）に属する学校をそれぞれ 6 校ずつ抽出する。

2-3 小結

第 2 章では現在日本にある私立女子校を概観した。女子校の数は近年減少方向にあり、特に首都圏や大都市では学校の生存競争が行われていると言える。また宗教的要素を含むミッション系の学校も、全体の約半分を占めている。これらの点は、後の学校種別のキャリア教育の調査に影響を及ぼす情報である。

また全体を 4 分割した偏差値と初年度納入費の関係には、ある程度の生活水準を保った家庭の集まる私立学校のみ調査とは言えども、ゆるやかな相関関係が存在することが判明した。経済的要因と文化資本が、キャリア教育の検討にあたってどのような影響を及ぼすのか。次章ではこの調査結果を基準とし、学校種別のキャリア教育の調査報告を行う。

¹⁴ 全体的に緩やかな右肩上がりとなったため、3 群より偏差値は低くなっている。そのため、本研究では「やや高い」と表現している。

<第3章> 私立女子校のキャリア教育への取り組み

本章では4分類それぞれのキャリア教育の「場所」「設立年」「偏差値」「学校の種類（置かれているコースや宗教など）」「目的」「期間」「方法」「進路先」を調査し、1グループ6校ずつ調査し、分析した結果を記す。細かな調査結果は末の資料を参照して頂きたい。

3-1 1群（偏差値低い×初年度納入費高い）の調査報告と分析

偏差値が低く、初年度納入費の高いこのグループは、進路先は進学から就職まで、設立年は新旧さまざまであり、特にこの2点に関しては特徴的な要素は見当たらない。しかしながら、入学後のコースが豊富であるということ、キャリア教育を全面的に押し出している派手目な学校が目立つということ、大都市に分布するものが多いということは、このグループに特徴的なものである。

まず入学後のコースに関して、②白藤学園 奈良女子高等学校では、「センター受験コース」「文化みらいコース」「エレメンタリーミュージックコース」「スポーツサイエンスコース」「パティシエールコース」「イラスト・デザインコース」「保育コース」の7つのコースが用意されている。各コースに特色を持たせ、「個」を伸ばす指導に徹することが掲げられている。その他、⑤中村中学校・高等学校以外では、「幼児教育コース」「美術・イラスト・アニメーションコース」「福祉コース」などの豊富なコースが見られる。

次に「キャリア教育」を全面的に押し出している派手目な学校を紹介したい。（キャリア教育という用語を使用していなくても、キャリアに関する政策に工夫がなされたり、それによって他校との差別化を図っている様子である。）特に印象深い学校は②白藤学園 奈良女子高等学校、③大阪成蹊女子高等学校、⑤中村中学校・高等学校の3校である。②白藤学園 奈良女子高等学校は、100年以上もの歴史を持つ伝統校である。英語検定はもちろん、漢字、日本語、ワープロ検定など、様々な資格取得の機会を設けている。またコース毎に体験授業を多く取り入れているようで、行先の異なる海外旅行研修も存在する。次に紹介する③大阪成蹊女子高等学校は、特にキャリア教育に力を注いでいる学校と言える。普通教科と同時にキャリアコーディネーターという役割を持つ教師も存在する。設備も充実しており、3つのグラウンドと3つの体育館を持っていたり、新設のキャリア特進コースでは生徒1人につき1台のiPad miniを支給したりする程である。その他、スカイプを使って大企業と商品開発を行ったり、コミュニケーションプログラムを導入したりと、勉強のモチベーションアップを図っている。最後に⑤中村中学校・高等学校は、普通科と国際科のみのコースであるが、中高一貫教育で「30歳になったときの自分」を想定し、それまでに歩むキャリアをデザインさせている。6年間を通して自己実現に向けて邁進することを目標に「自主自立学習者」の育成を目指している。チャイムを鳴らさなかったり、株式会社能率手帳プランナーズの能率手帳を利用したりして、生徒に計画性や自己管理能力の大切さを理解させる試みを徹底している。この学校も施設が非常に綺麗で、食育と地域貢献のためにスポーツ栄養士が監修しているカフェがあったり、地域住民も利用できる足湯があったりする。またキャリアコンサルタントの資格を持った教師も存在する。さらに様々な企業と協力関係にあるようで、企業訪問も100社以上と数多く訪れることが可能だ。

もちろんこのグループに属する学校でも、その他の学校と同じような教育を行っている学校も存在する。特にキャリア教育に力を注いでいなくとも、制服の可愛さやクラブ活動の強化など、別の部分で何

かしらの付加価値を付けている様子である。

最後に分布に関してだが、栃木県、京都府、大阪府、神奈川県、東京都など大都市が多い様子である。大都市には全体の45%の私立女子校が集結しており、学校そのものの生き残り競争が激しい。そのため、豊富な教育資金を投資し、派手なキャリア教育を打ち出すことでインセンティブを設け、宣伝や学校改革を行っている学校が多いという見方も出来るだろう。

このように、多様なコース設定、キャリア教育への資金投入、分布はこのグループの特徴といえる。これらの学校でのキャリア教育は、外部講師派遣といったお金のかからないキャリア教育に留まらず、キャリア教育専任の教師を雇ったり、多くの企業と提携し、見学会や商品開発に取り組んだりしている。これは豊富な資金を持っている学校ならではのキャリア教育と言えるだろう。

3-2 2群（偏差値低い×初年度納入費低い）の調査報告と分析

偏差値が低く、初年度納入費も低いこのグループの学校は、青森県、広島県、北海道、愛知県、広島県、静岡県など、地方に位置している学校が多い。また設立年は基本的にはまばらであるが、全体的にみると比較的古い学校が多いと言える。特徴的な点としては、1群（偏差値低い×初年度納入費高い）と同様にコースが充実しているが、それほどまでにキャリア教育として主張している様子はなく、目に見える資格といったスキルを重視していることである。ただしこのグループに属するミッション系の学校は、1~2年程前から新たな試みとしてキャリア教育を導入する動きを見せている。

青森県に位置し、普通科、家政科、情報科を持つ①柴田女子高等学校では「教育即生活」という目的にあるように、就学後に使えるスキルを重視しており、特に家政科や情報科に力を入れている。進路先も、この分野に関連した就職先や短期大学、専門大学が多い。また愛知県の④藤ノ花女子高等学校は資格取得に価値を置いており、漢字、硬筆書写、毛筆書写、電卓計算、ワープロ実務、パソコン入力スピード認定、情報処理、英検、ホームヘルパー講座2級、色彩コーディネーター、南坊流茶道、調理師など様々な資格が取れるようになっている。

次にキャリア教育の新たな政策に乗り出しているミッション系の学校を紹介する。これらの学校は主に宗教教育や学業に重き置き、人間力や語学力に力を入れているようであるが、同時にキャリアデザイン教育をスタートさせたようだ。仏教校である②進徳女子高等学校とカトリック校である⑥浜松海の星高等学校がその例である。②進徳女子高等学校では、社会人としてのマナー講座、区役所と連携し、生徒の考案したスイーツを売るなどの試みを行っている。⑥浜松海の星高等学校では従来の資格取得支援や自主学習時間の確保に加えて、2013年度より新たに「キャリアデザイン」という科目を設立した。これはグループワーク中心の参賀型の授業である。花王株式会社やソニー生命保険株式会社から講師を招き、環境講座やライフプランニング実習講座を設けているようだ。どちらの学校も新たな試みであったため、反応を調査することは出来なかったが、内容を見ると外部講師派遣や区役所との連携など、1群と比較すると教育資金をそれほど投下している様子ではないことが分かる。

このグループに関しては、地方に位置している学校が多く、首都圏や大都市の生徒と比較すると就職や専門学校など卒業後の進路先が限られていることや、推薦制度といった約束された進路が存在するという点もあってか、あえてキャリア教育を行う必要性を感じているようには思えない。しかしながらミッション系の学校がキャリア教育と謳って新たな制度の導入を試みている点を見ると、経営が昔ほどスムーズにいかなくなったために学校改革や生徒集めの手段としてキャリア教育を取り入れているという

推測も出来る。ただ 1 群のように豊富な資金を得ているわけではないため、キャリア教育専門の教師の欠如や、単発で終了してしまいがちな外部講師派遣に留まってしまっている点が指摘できる。

3-3 3群(偏差値高い×初年度納入費高い)の調査報告と分析

偏差値が高く、初年度納入費も高いこのグループの学校は、今回ランダムに抽出したにも関わらず、6校全ての学校が東京都に位置していた。設立年も全体的に見ると古い学校が多く、知名度の高い伝統校が揃っていると言える。ブランド化されているためか、学校の生き残り競争に打ち勝たなければいけないというような切迫感はなくとも、焦ってキャリア教育に工夫を施すといった態度は見られない。基本的には偏差値の高い大学への進学を第一目的としながらも、キャリア教育に対しては余裕を持った取り組みを見せているのだが、中には特徴的なキャリア教育を導入し、制度改変 7 年で入学希望者を 60 倍に増やした学校も存在する。

東京都に位置する③品川女子学院中学部・高等部は上記で述べた入学希望者数をキャリア教育によって増加させた学校である。この学校は 2003 年より 28 プロジェクトを遂行している。これは「28 才になったときに、社会で活躍している女性を育てます」という目的を掲げ、中学 1 年生からライフデザイン教育を行うものだ。結婚および第一子出産後に仕事に復帰できても、以前の地位や役割には必ずしも就くことの出来ない女性を取り巻く現状を受けて、専門性の高い職業を視野に専門職大学院などへの進学を目指した学習指導や、英語能力の向上のための指導を行っている。具体的には「企業とのコラボレーション」、「地域」、「日本」、「社会」、「世界」という 5 つのセクションごとにプログラムを準備している。特に「企業とのコラボレーション」の起業体験プログラムは、サンヨー食品、岩塚製菓株式会社、サンリオ、YAHOO! JAPAN などと協力し、商品考案からベンチャーキャピタルへのプレゼンテーションまで、約半年間かけて開発体験をさせている。また「日本」のセクションでは茶道、華道、着付けの指導を行ったり、「世界」のセクションでは長期留学を斡旋したりしている。この品川女子学院中等部・高等部は特例であるが、①学習院女子中等科・高等科でも NPO 法人「夢探しプロジェクト」に協力要請をし、各界の第一線で活躍する人々のコメントを紹介してもらい、生徒たちの将来の夢や目標を探すきっかけ作りをしているなど、学業のみに偏ってしまうのではなく、余裕を持ってこうした機会を設けている。

今回ランダムに 6 校をピックアップして調査したにも関わらず、このグループに属するのは知名度の高い伝統校ばかりであった。大学進学を卒業の進路先に据え、勉強や国際教育を充実させている。そのため、将来どのように生きていくかといった生涯教育に近いキャリア教育ではなく、自分の夢を実現させるために必要であろう知識や教養を重視し、それに気付かせるような進路指導としてのキャリア教育を行っているという印象であった。

3-4 4群(偏差値やや高い×初年度納入費低い)の調査報告と分析

偏差値がやや高く初年度納入費が低いこのグループの学校は、山梨県、宮城県、千葉県、栃木県、大阪府(2校)と、都市に若干の偏りは見せているが、基本的にはまばらに分布している。設立年に注目すると、伝統を持つ古い学校が多いことが分かる。また特徴として 6 校中 5 校がミッション系の学校であり、ミッションスクールが多いグループと言えるだろう。この種の学校は、独自のペースでキャリア教育を行っているという印象である。女性としての自分を育てつつ、社会で自立していくための、生き方の指導を行っている。特に奇抜で目立ったキャリア教育を行っている様子はみられないが、代わりに宗

教に基づく精神の育成と大学進学に重きを置いているようだ。

特に 6 つの学校の中で印象深いのはキリスト教系の①山梨英和中学校・高等学校である。中高一貫校であり、6年間の教育に女性学を盛り込んでいる。中学1年時は「自分の性を知る～体、心、命」、中学2年時は「女性の生き方」、中学3年時は「女性の生き方～社会的・歴史的視点から」、高校1年時は「女性と病」、高校2年時は「ジェンダー」「男女共同参画社会」、高校3年時は「自立した女性を目指して」をテーマにしている。これらはホームルームや行事の中で学んでいくと言う。また「男女は身体的違いのみならず、脳の構造や感覚器官が異なり、感じ方（見え方、聞こえ方）、考え方、行動など、男女に著しい違いがある。」という脳科学の研究をもとに、数年前から女子に特化した教育研究を行っている。さらに ICT 教育にも力を入れており、最新のコンピュータやソフトを完備した授業も展開している。この学校では進路指導をキャリアスタディと呼んでおり、6年間の学習プログラムとして計画建てられている。

このグループは他グループと比較すると、特に「キャリア教育」として指導を行っているわけではないが、伝統的なミッションスクールが多いと言う理由から来るものだろうか、独自のペースで進めている様子である。良い大学へ生徒を送り出さなければならないという切迫感は感じられず、進路指導として勉学をサポートしながらも宗教教育や国際教育を通して人間性の育成を目指すバランスの良い落ち着いた教育を行っていると言える。教育資金が豊富であるとは言えないが、①山梨英和中学校・高等学校のように各校が出来る範囲で独自の工夫を加えていると言える。

3-5 小結

第3章では4つのグループの分析結果を報告した。1群（偏差値低い×初年度納入費高い）は大都市に分布する学校が多く、コースも多様で、他との差別化を図るための工夫が見られた。豊富な資金を投下し、プロジェクトや施設を充実させ、派手目なキャリア教育でインセンティブを得ようと試みている様子が伺えた。2群（偏差値低い×初年度納入費低い）は地方に分布している学校が多いこともあってか、進路先は就職や専門学校が多い。そのため、キャリア教育といえば資格取得や就職に直結するものをイメージしている学校が多い様子である。ただ、このグループには地方のミッションスクールも属しており、これらの学校は近年新たな取り組みとしてキャリア教育の導入を試みている。3群（偏差値高い×初年度納入費高い）は東京都の知名度の高い伝統校または進学校で、特にキャリア教育を謳っていない。就職する者はほとんど存在せず、進学指導に力を入れている。4群（偏差値やや高い×初年度納入費低い）はミッションスクールを基本とする伝統校が多く、マイペースにキャリア教育を行っている様子である。進路指導をしつつも、ボランティアや宗教教育を通して、倫理や生き方を説いているようだ。

以上のように、グループ毎にキャリア教育を調査していくと、分布にみられる特徴、キャリア教育をどのように捉えているのか、どのような位置づけであるのか、と言った部分が見えてくる。結論の部分では、この分析結果のより深い考察を述べる。

3. 結論

1-1 事例の考察：理想的なキャリア教育とは

結論では、1~4 群の情報から考察したことを 3 点述べる。まずキャリア教育の位置づけに関して、そしてキャリア教育と教育資金の関係、最後に理想的なキャリア教育についてである。

1 つ目のキャリア教育の位置づけに関しては、学校種別の「キャリア教育」の概念の差と、宣伝としてのキャリア教育の姿が指摘できる。偏差値が高い、またやや高い学校では「進路指導」や「生き方の指導」を示しているのに対して、偏差値の低い学校でのキャリア教育は「個性の尊重」や「自分に合ったキャリアを見つける」と謳われることが多い。前者のグループに属する多くの学校は特徴的なキャリア教育を行っていない。または行っていたとしても、ホームページやパンフレット上でそれがメインとなる書き方をしていることは少ない。その多くが歴史を持つ伝統校で知名度も高い学校であること、進路先のほとんどが四年制大学ということが関係しているだろう。これらの学校は、伝統的な教育方針を守り生徒を教育すること、確実に四年制大学に送り出すことを期待されている。そのため、キャリア教育で他と差別化したり、あえてキャリア教育に期待される基礎的・汎用的能力を育成したりする必要性を感じていないのだろう。後者のグループで、特に初年度納入費の高い 1 群の学校は、キャリア教育に資金を投入し、あらゆる工夫を行っている。これは、無名である学校は、どこかで他校と差別化を図り、生徒を集めなければならないからではないだろうか。他校との差別化を図る手段の一つとして、キャリア教育が位置づけられていると推測できる。個性を尊重し、一人ひとりが自らの夢を追うことが出来る環境という謳い文句が度々見られるのも魅力的な学校として売り出すためとも言えるだろう。もちろん例外もあるだろう。しかしこれでは変に生徒たちの夢をあおり、現実から遠ざけ、その場しのぎの指導をしてしまう恐れもあるのではないだろうか。また 2 群にみられる学校でもキャリア教育を差別化の手段としている様子も無きにしもあらず、と言ったところだろう。しかしこのグループに関しては、現存の職業専門学校とどのように差別化を図るかの方が課題となるだろう。学校種別にキャリア教育の概念が異なり、時として生徒集めの手段として利用されてしまう恐れがあり、それがキャリア教育の学校内での位置づけに影響を及ぼしていることは、理想のキャリア教育を検討する上で把握しておかなければならない点の 1 つだろう。

次にキャリア教育と教育資金の関係についてである。キャリア教育を全面的に押し出したり、施設が充実していたり、様々な工夫がなされていたりする学校は、往々にして教育資金を所有している場合が多い。これは 1 群、2 群、3 群を比較するとわかる。中村中学校・高等学校や大阪成蹊女子高等学校といった教育資金が豊富な学校には、キャリア教育専任のキャリアコーディネーターやキャリアコンサルタントが存在する。また企業とのコラボレーションを通して、長期的な計画を立てて動き、単発でない職業体験を行うことが出来る。地道に計画を立てて行動する練習が体験的に出来る仕組みとなっている。こうした充実した華やかなキャリア教育の中で、楽しみながら計画性や自立心を育成することは、非常に有意義ではないだろうか。しかしながらこのようなキャリア教育の導入が可能な学校は、教育資金を持っている学校に限ったことだ。偏差値が低く、初年度納入費の低い学校でのキャリア教育は、外部講師派遣や地域区役所との連携、役に立つか分からない資格の取得などに留まっている。教育資金の有無に因って受けられる内容が変化するようでは、階級が再生産されてしまうばかりではないだろうか。こ

これらの現状を考慮すると、キャリア教育に対しての学校別に国からの支援を受ける必要性を主張できると言える。

最後に、全体像から考察する理想のキャリア教育について述べたい。これまで見てきたように、学校を取り巻く環境は様々である。そのためキャリア教育も学校種別に異なるものを行うべきだと考える。しかしながら異なるキャリア教育とは言っても、共通して育成すべきユニバーサルな能力は存在すると考える。それは「計画性」である。ベック（1988）¹⁵はリスクを生産する危険社会では「富める者も力を持つ者も安全でない」。さらに「危険は予測と関わって」おり、「決定権を持つのは未来」である、と指摘している。自ら考えることをやめ、目の前に提示されるものをこなし、一般的に言われる一流大学に進学したとしても、その先の人生が幸せになるとは限らないリスクの高い現代社会においては、未来をいかに計画建て、自分の手で作っていけるかが重要ではないだろうか。そのための訓練をキャリア教育で積む必要があると著者は考える。具体的には1群⑤中村中学校・高等学校「6年後のわたし。そして30歳のわたし。中学校、高校の6年間で、未来の『わたし』の姿を見つけ出す。」、4群③品川女子学院中等部・高等部「28才になったときに、社会で活躍している女性を育てます。」という目標を掲げ、生徒に計画的に行動することを習慣付けるように指導を行っているこの2校は非常に参考になると考える。しかし参考になるとは言っても、考慮すべき課題が3つある。1つ目は先ほど述べたとおり、現状では教育資金に困ってしまうということである。教育資金が豊富な学校ではその資金をキャリア教育政策に投下することで、充実したプロジェクトを行うことが出来る。しかしながらそれは限られた学校のみである。資金を持っていない学校は、国の支援などによって支えなければならない。また2つ目に女性のライフプランを教育者側で押し付けてしまう危険性を孕んでいることが指摘できる。30歳や28歳は結婚や出産などの女性にとって大きなライフイベントが発生するだろう年齢ということで設定されているようだが、これは抑圧であるとも言えるだろう。ライフプランの良し悪しを教育者側で決定してしまうのではなく、あくまでも中立的な立場を取りながら指導に臨まなければならない。その点では4群①山梨英和中学校・高等学校のように、自立した女性を目指してジェンダー学の講義を取り入れながら指導を行っている学校は偏った人間の育成を避けることが出来るのではないだろうか。また3点目に内容そのものを参考にするか否かは検討しなければならないということだ。企業とのコラボレーションが果たして有効であるのか。特にその取り組みの目立つ1群に所属する学校は、学校の存続をかけて競争が激化していると言う背景が垣間見えるため、生徒を集めるための手段としてキャリア教育を利用している可能性も考慮しなければならない。単に参考にすることは危険である。そのため、どのような生徒が集まった学校であるのか、その生徒たちに適したキャリア教育は何か、といったことに関して適切で専門的な助言を与える役割を持った人間が必要になるだろう。

これらの点を踏まえて、理想的なキャリア教育は計画性を育むユニバーサルなキャリア教育を基盤とした上で、生徒の家庭環境や背景を把握し、分析し、適切な生徒像を掴み工夫を行う教育であると結論付けたい。中途半端にキャリア教育を行うよりは、大学進学への指導に重きを置くのか、就職するための指導に特化するのか、ミッションスクールのように人間性の育成と勉学のバランスを取ることを狙っていくのか、目的を定めるべきである。それは生徒や家庭環境の分析に因る。各校が正しい自己認識と目指すべきものを把握しながら、工夫をきかせる必要があるのだ。

¹⁵ ウルリッヒ・ベック(1988)『危険社会』二期出版

1-2 本稿のまとめ

本稿はキャリア教育および日本における私立女子学校を概観した上で、学校種別のキャリア教育を調査し、分析・考察した。キャリア教育は言葉だけが独り歩きする上に効果を図ることも難しいため、その実態が掴みづらいものであった。しかしながら学校種別に調査することで、キャリア教育の概念や位置づけの相違で内容が180度変わってしまうということが認識できたと同時に、理想的なキャリア教育であるユニバーサルなキャリア教育（計画性を育てる教育）を考えることができた。

しかし本研究には限界がある。それは私立学校を対象としているため、一定の生活水準を保つ家庭の子供の集まる学校のみでの調査となってしまう点だ。より深く体系的にキャリア教育の正体を暴き、問題解決に迫るためには、公立学校やその他の私立学校にも目を向けて調査を行う必要がある。また研究方法に関しても、各校のホームページやパンフレット、関連する資料に限ってしまっている。したがってフィールドワークなどを行い、各学校を細かく分析し、具体的にユニバーサルなキャリア教育以上のものを検討することがこの研究の次なる課題と言える。

品川女子学院中等部・高等部や中村中学校・高等学校など、確かにキャリア教育の工夫によって進学者数を伸ばしたり、生徒を集めるのに成功したりする学校も存在する。しかしながら、それは全ての学校に真似できる取り組みではない。これからのキャリア教育の検討に重要なことは、偏差値や学費と言った現実的な視点から生徒の状態や家庭環境／背景を把握し、分析し、適切な生徒像を掴むことである。キャリア教育は時として生徒集めの手段として利用されたり、生徒に夢を見させることでその場しのぎの短期的な指導になってしまったりする。そのため、指導すべき能力は何か、という目的を据えた上で、学校種別にしっかりと生徒の丈に合ったキャリア教育を検討していく必要があるのだろう。

<資料>

1 群(偏差値低い×初年度納入費高い)

①足利短期大学付属高等学校 (<http://www.ashikaga-jc-h.ed.jp/>)

場所	栃木県
設立年	1925
偏差値	45
学校の種類	特進、進学、福祉教養
目的	聖徳太子「和」の精神、品性を併せ持つ数多の才能
期間	特になし。
方法	特になし。一人一人の可能性を最大限に引き出すためにコースに分かれて細かくサポート。特進では「生きる力」が謳われ、少人数制で国公立・有名私立/中堅私立合格を目指す。進学では個性に合わせた選択(音楽・書道・情報)をさせる。足利短期大学の看護・こども学科への進学がメインの様子。福祉教養コースでは体験学習メイン。専門科目としての知識・実技を学ぶ。国際交流では語学研修あり。
進路先	短期大学、専門学校(福祉系 80%、美容系 10%、工学系 5%、医療事務系 5%)が多い。大学は文教、東京福祉、神田外国語、跡見学園女子大など。
備考	特にキャリア教育を押し出している様子はない。コース毎に異なる手法を取って教育を行っている。

②白藤学園 奈良女子高等学校(<http://www.shirafuji.ac.jp/high/>)

場所	奈良県
設立年	1893
偏差値	40
学校の種類	センター受験、文化みらい、エレメンタリーミュージック、スポーツサイエンス、パティシエール、イラスト・デザイン、保育コース
目的	一人ひとりを大切にして、「成す喜びと感動と自信を呼び起こす教育の実践」。「個」を伸ばす指導に徹する
期間	特になし。

方法	特になし。行事としては女性教育マナー研修、進路適性検査、漢字検定、日本語検定、全校人権教育学習会、インターンシップ、宿泊研修、ワープロ検定など豊富。コースごとの海外研修旅行もある。センター試験コースではセンター試験5科目をカバーする内容。その他のコースはセンター試験コースでの基礎科目の半分ほど。その時間を利用し、専門として体験授業などを取り入れながら学んでいく。文化みらいコースは国際社会で生きていけるようにと奈良という立地を活かして日本文化を学ぶ。マナーの学習など。エレメンタリーミュージックコースは音楽系の大学や専門学校への進学、プロになることを目指して指導。スポーツサイエンスはするだけではなくマネージャーやトレーナー向けの授業もある。パティシエールコースはお菓子作りのコンテストに出場する。イラスト・デザインコースはパソコンを使ってデザインすることを覚える。保育コースはピアノなどの音楽を身に付け、体験を通して保育を学ぶ。
進路先	4年制大学、短期大学、専門学校、就職(就職率100%)
備考	教育資金が豊富な様子。確かな進路保障と積極的な体験学習を誇っている。キャリア・マネジメントという科目が、文化みらいコースにだけ存在する。この学校も、キャリア教育はあまり謳っていない。

③大阪成蹊女子高等学校 (<http://high.osaka-seikei.ac.jp/>)

場所	大阪府
設立年	1933
偏差値	40
学校の種類	キャリア特進(新)、キャリア進学、幼児教育、美術・イラスト・アニメーション、スポーツコース
目的	「後期中等教育に求められる役割は、従来の知識尊重型の学びから、個々のもつ能力を発現し、個々のライフスタイルに必要な学びへと大きくシフト…生徒の多様なニーズに応える」
期間	3年間を通して。
方法	実践的キャリア教育・職業教育支援事業推進校に2011年より連続認定。大阪府の全面協力による職業体験も実施。新入生宿泊ダイアログ研修、レーン選択指導、キャリア手帳など。1人1台iPad mini。キャリアコーディネーター。2013年度から始まったキャリア特進コースはキャリア教育×国公立大学合格のための教育。オリジナルのキャリア教育(スカイプを使って大手企業と商品開発、コミュニケーションプログラムの導入)で勉強のモチベーションアップを図る。アメリカでのキャリア研修もある。キャリア進学コースでもキャリア教育×人間力を謳っている。未来のデザインと職業体験を導入する。美術のコースでは美術棟を設けており、コンクールなどに積極的に取り組む。専門的な設備や研修の充実を謳う。保育のコースでは「将来に役立つ」行事やカリキュラムで適性を確認する。指定校推薦も150名以上保障。スポーツコースは優先入学制度を謳う。3つのグラウンド3つの体育館を持つ。充実した施設。
進路先	四年制大学43%、短期大学42%、専門学校13%、就職2%

備考	教育資金が豊富な様子。充実した施設と進路を保障している様子。キャリア教育＝進路指導の印象。「1年時で自己を知り、社会に目を向け、職業観を育成、2年時ではなりたい自分を見つけるために学部や学科の内容を研究し志望校の受験科目を調べ、3年時では志望校(学部・学科)群の最終決定および受験に向けての心構えをアドバイス。」職業観に寄りすぎているキャリア教育を改め、学習意欲のアップを指摘した答申を受けて、新たにキャリア教育特進コースを設けたのではないか。
----	--

④京都精華女子中学校/高等学校 (<http://www.k-seika-girl.ed.jp/>)

場所	京都府
設立年	1905
偏差値	特進 54 進学 43
学校の種類	中学(エキスパートクエスト、ヒューマンクエスト、アートクエスト、スポーツクエスト)、高校(総合進学：標準/幼児教育/パティシエール/吹奏楽、美術進学、看護・医療系進学、人間科学スポーツ系、EX-特進コース)
目的	人にはそれぞれ個性や能力を持ち、適正を備えています。本校では5つのコースを設定し、個々の進路希望に合わせた学習指導。中学ではそれぞれの興味を引き出し、適性を模索。高校では夢や目標を見つけ実現させるためのコース・選択。個人の能力を伸長させる。「やさしい女性 かしこい女性 強い女性」
期間	中高一貫
方法	コース別の進路指導。進路ガイダンスや実力テスト・模擬試験、進路ノートの作成など。小論文や面接指導も行われる。他コースでは第1, 3, 5土曜日を利用し、授業内だけでは体験できない取り組み。ワークショップや体験学習など。福祉系資格のホームヘルパー2級が取得できる。フィールドワーク、お仕事体験、高大連携授業など。特にキャリア教育に特別資金を投入している様子はない。コース別の学校によくみられる学校。
進路先	EX-特進コースでは四年制大学がメイン。戦績もまざまず。専門学校は医療・福祉系多数。
備考	キャリア教育という言葉は全く使っていないが、職業教育という言葉は見つけた。コースに分かれていることが売りのよう(高校のパンフレットとは別に、コースのパンフレットが存在する。)。京都精華大学との連携があるため、余裕があるように見える。特進コースは主に難関私立向けの受験を提供している様子。

⑤中村中学校・高等学校(<http://www.nakamura.ed.jp/>)

場所	東京都
設立年	1903
偏差値	44
学校の種類	普通(普通科と国際科:国際科は1年留学)

目的	6年後のわたし。そして30歳のわたし。中学校、高校の6年間で、未来の「わたし」の姿を見つけ出す。…遠い未来まで見つめれば、明日がもっと輝くはず。(生涯学習社会を睨んで)
期間	中高一貫(週何時間かは不明。総合学習は週2時間)
方法	30歳になったときの自分を想定し、それまでに歩むキャリアをデザインする。+夢(将来設計)を実現するための実力を身に付ける。1年で自己と自己の周辺を知る。自己肯定から他者肯定へ。2年では職業と社会の仕組みを知ることを目標に、職業観・勤労観の育成。3年では高校卒業後の進路を知ること目標に幅広い選択肢の把握。4年では大学卒業後の進路を知ること目標に、労働市場情報・キャリア情報の理解。5年では資格。技術・学部・学科を知ること目標に、Competency(総合的変化対応能力)を意識する。6年では自己実現に向け邁進すること目標に、自主自立型学習者を目指す。30歳を設定しているのは、女性としてのライフイベントが起り始める時期だから。キャリアコンサルタントの資格を持った教師。
進路先	四年制大学。ほぼ私立。国公立、早慶上智は少ない。
備考	キャリアデザインと進路指導は別。高校からの募集がないため、1~6年という表現をしており、徹底した中高一貫型のキャリア教育を実践。また全教員が2~3人の生徒をチューターとして受け持ち、面談などを通じて有効なアドバイスをしながら進路決定までサポート。

⑥白鵬女子高等学校 (<http://www.hakuhojoshi-h.ed.jp/>)

場所	神奈川県
設立年	1936
偏差値	43
学校の種類	セレクト、保育・福祉、国際、メディア表現、スポーツ、総合コース(「私カリキュラムで夢を見つける」)
目的	個性を尊重したコース制で夢を見つけ、自ら学ぶ姿勢を身につけると共に、誠実で健やかな心を養うことで、自分だけの翼を手に入れます。
期間	高校3年間、総合的な学習の時間。
方法	進学ガイダンス(外部講師派遣)、大学見学会、保護者対象進学説明、大学との連携など。進学ガイダンスは1年生は実習形式で興味のある職業・職種を調べ、将来のイメージを見る。2年生では5年後、10年後の自分を念頭に、大学などの先生のお話を聞きながら、夢を叶えるための道筋を進学希望先を見つける。3年生では志望校の受験情報を直接入手。夢の実現を目指す。大学との連携では、連携した大学の講義を受けることができ、それが卒業単位として認められる。またその大学に入学すれば、必要単位として加算される。(関東学院、鶴見、田園調布大学と教育連携)。
進路先	平成23年は38%が大学、17%が短期大学、30%が専門学校、15%が就職・その他。
備考	キャリア教育という言葉を見つけた枠組みは、大学進学を意識したセレクトコースであった。また詳細説明でも、進学を主軸として語っていた。進学実績は平成20年以降大学進学率を伸ばしている。学習サポートも充実している様子。

2群(偏差値低い×初年度納入費低い)

①柴田女子高等学校 (<http://shibajo.ed.jp/>)

場所	青森県
設立年	1948
偏差値	35
学校の種類	普通科(就職・進学希望者:主に短大・専門学校)、家政科(伝統をもつ学科。東北、北海道ではトップクラス)、情報科(インターネットやマルチメディアスキルを軸に、就職や進学)の3つに分かれている。大正12年の弘前和洋裁縫女学校が母体。
目的	教育即生活
期間	特になし。しいて言うならば2年時のインターンシップ(夏)
方法	進学関係では補習、校外模試。就職関係という欄ではインターンシップ(2年生全員)、企業見学会(3年生希望者)、就職もし、職業講和会、県外企業訪問などがある。
進路先	四年制大学/短期大学、専門学校が同じ比率。就職が一番多い様子。姉妹校は東北女子大学、東北女子短期大学、東北栄養専門学校、東北コンピュータ専門学校(経済産業省情報化人材育成学科認定校)である。
備考	寮がある。教育即生活という目的にもあるように、即使えるスキルを重視している傾向にある。キャリア教育という言葉は使っていない。進学先は家政系か情報系が多いが、その他ヘアアーティスト、コミュニケーションアート、デザインも存在する。

②進徳女子高等学校 (<http://www.shintoku.ed.jp/>)

場所	広島県
設立年	1908
偏差値	41
学校の種類	(新)普通科キャリアデザイン(大学進学に対応した学びに加えて、英語やパソコンの授業にも力を入れる。進学や就職に有利なパソコン検定や英検などの資格取得。)、普通科特進、食育デザイン科(卒業時に調理師免許を取得できる。仏教。
目的	「一年次で高校生としての基本的な学力をしっかり身につけるとともに、先生や周りの人たちとも相談しながら自分のキャリア(将来像)をデザインします(描く)。そして二年時から各自の進路目標を実現するための学習を3つの系統(文化・教養系、芸術・科学系、情報・ビジネス系)から選び、専門的な学習を行うことによって、夢の実現はより身近なものになっていくことでしょう。」
期間	特になし。新たに始まるキャリアデザインコースでは2年時から。
方法	特になし。家政実習あり。キャリアデザインコースは本年度から。1年では基礎学力を、2年から希望系列(文化・教養系、芸術・科学系、情報・ビジネス系)を選択。食育デザイン科は区役所からの持ちかけでスイーツを販売。専門分野の学習や資格の習得、校外学習を通して学習。進路に対する認識を高め、職業観・労働観を育成。社会人としてのマナーを身につける。(2013年度から)仏教校ということで「行道進徳」:「人としての正しい道を歩み、高い人間性を養う」ことも重視している。

進路先	普通科では大学・短期大学が30%、専門学校進学が30%、就職が34%、その他6%。食育デザイン科は大学・短大進学が38%、専門学校進学24%、就職34%、その他4%。
備考	仏教系の指定校推薦があり、それで大学・短期大学へ進学する生徒が多いのではないかと推測できる。食育デザイン科に力を入れている模様。新たにキャリアデザイン科を導入したのは、就職や進学が重視されているとされる中で、生き残る選択だったのではないかと推測できる。

③函館白百合学園中学校・高等学校 (<http://www.hakodate-shirayuri.ed.jp/>)

場所	北海道
設立年	1886
偏差値	43
学校の種類	中学普通、高校は進学、特進(通常LB)、看護医療系
目的	「キリスト教の精神に基づいて、正しい世界観と道徳的信念を養い、神のみ前に誠実に生き、人としての品性を重んじ、愛の心をもって人類社会に奉仕できる人間を育成」基本理念より。
期間	特になし。
方法	特になし。英語/漢字/ワープロなど各種資格の取得をバックアップ。模擬テスト/適性試験/模擬面接もあり。看護医療系は2年時に総合病院での医療実習を、3年時では介護施設での実習を行う。大学受験に備えた主要3教科授業、人間関係力の育成、語学力重視。
進路先	専門学校、就職へ進む生徒もいるが、四年制大学が殆どを占める。
備考	特にこれと言ってあえてキャリア教育を行っている様子は伺えない。キリスト教の精神と学業に重きを置いているようである。著者の出身校と似通った雰囲気がある。中高一貫で寮がある。義務勉強時間の存在。中高一貫と高校は分けた方が良さそう。中学で偏差値評価が低くとも、6年間を通して伸びる可能性大。

④藤ノ花女子高等学校 (<http://www.fujinohana-h.ed.jp/>)

場所	愛知県
設立年	1902
偏差値	44
学校の種類	特進コース(センター試験や受験意識)、普通科(多彩な進学を目指す)、生活情報科(コンピュータや周辺機器を使用する実習授業。家庭・情報科目はもちろん、福祉系も)、食物科(調理師の資格を取ることが出来る)
目的	「誠をもって勤儉譲を行え」が校訓
期間	特になし。
方法	週1時間「教養」の授業。マナー、時事解説、電話対応、冠婚葬祭のマナーなどを身に付けさせる。授業料をおさえることで、選ばれる私学にしている。豊橋創造大学との連携で、シゴト取材なども行っている。食物科は調理師養成の学科。音楽鑑賞会。
進路先	詳しい数値は不明。四年制大学よりも短大、専門学校、就職の方が多い。専門学校は看護系からパティシエ、調理、産業、デザイナーなど。アートも少し。

備考	資格取得に価値を置いている様子。漢字、硬筆書写、毛筆書写、電卓計算、ワープロ実務、パソコン入力スピード認定、情報処理、英検、ホームヘルパー講座2級、色彩コーディネーター、南坊流茶道、調理師など。就職率は100%。中学もあり。
----	--

⑤鈴峯女子中学校・高等学校(<http://www.suzugamine.ac.jp/high/index.html>)

場所	広島県
設立年	1941
偏差値	45
学校の種類	特別進学（国公立大学進学目指す）、文理（文系四年制大学への進学）、総合（部活動と勉学の両立、体育・音楽・美術・家政・保育・情報系選択科目あり）コースがある。
目的	「言語教育」、「環境教育」を重視した本校独自のカリキュラムの編成・実施、生徒一人ひとりのよさや可能性を最大限に伸ばす「個性教育」を推進し、将来を担う女性の育成に全力で取り組む。
期間	特になし。中高一貫。
方法	しつけ、マナーの教育の徹底。バンングラデシュ、英国での研修。
進路先	大学進学109名、短大進学75名、専門学校41名、就職者4名、その他18名。
備考	短期大学附属。しかし続く定員割れにより、同じ広島にある修道学園と合併に向けた協議を始めている。

⑥浜松海の星高等学校(<http://www.uminohoshi-h.ed.jp/>)

場所	静岡県
設立年	1956
偏差値	45
学校の種類	特別進学（国公立・難関私大）、総合進学（勉強と部活の両立。多様な進路の実現。）、演劇コース（演劇を通して表現力を伸ばす）。カトリック。
目的	実社会で役立つ能力を育てる教育、リーダーシップを養う女子教育、心の教育
期間	
方法	2013年度より新たに「キャリアデザイン」科目の設立。グループワークを通じた参加型の授業。花王株式会社、ソニー生命保険株式会社の環境講座、ライフプランニング実習講座を年に1回ずつ実施。チューター制による指導、看護・医療・栄養系プログラムなどの障害のキャリア形成に役立つ学習指導と進路サポート、グローバル、表現力、リーダーシップ（学校行事・ボランティア）に力を入れる。また資格（英検、TOEIC、漢字、日本語、数学、歴史、情報処理検定など）取得も推進。
進路先	大学、短大、専門学校の指定校多数。受験では国立は静岡県立大学、静岡文化芸術大学、奈良県立大学など。

備考	約束された進路によって、高校は自由に暮らせる。学力向上のため、新たに PrepTime という朝の 10 分間の自習時間を導入など。特色の部分に、女子ならではの、のびのびとした教育として学習指導、しつけ、生活指導、キャリア教育と言及している。
----	---

第 3 群 (偏差値高い×初年度納入費高い)

①学習院女子中等科・高等科 (<http://www.gakushuin.ac.jp/girl/>)

場所	東京都
設立年	1877
偏差値	70
学校の種類	普通科
目的	「全人格的な陶冶」生徒の知性・感性を含むすべてに働きかけ、成長を促します。「輝け、わたしの中のわたし」
期間	中学 2 年からスタート
方法	<p>総合的な学習は集中授業で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「キャリア教育は中二でスタート。NPO 法人「夢さがしプロジェクト」から各界の第一線で活躍中の方々のコメントなどを紹介してもらい、生徒たちは自らの将来の夢や目標を探すきっかけ作りをする。中三で職業調べ、高一ではそれを踏まえて卒業生である大学生を招き、買う学部・学科の話をする。高二になると卒業生の 20~30 代の社会人に仕事について話をしてもらい、将来の進路に向けて力を養っていく。」参考：『「品性と知性」を身につけ、未来を切り開く力を育てる』 <p>http://education.excite.co.jp/school/girls/rid_E1337752841081/</p> <ul style="list-style-type: none"> 「キャリア教育の一環として、中等科三年の全員が夏休みに興味・関心のある職業について調べるという課題に取り組んでいる。職業を資料で調べ、実際にその職業に就いている人に会い、インタビューしたことをレジュメとしてまとめる。その上で、クラスごとに一人ずつプレゼンテーションを行う。」新校長インタビュー2009年2月23日 <p>http://zenshigaku-np.jp/news_01.php?y=2009&m=2&d=23&newsid=769&archive=true</p>
進路先	平成 25 年 学習院大学 64%、学習院女子大学 2%、他大学 29%、その他 4%。学習院大学推薦 128 名、学習院女子大学 5 名、国公立大学 9 名（お茶の水女子大学 1 名、一橋大学 5 名、横浜市立大学 1 名、東京芸術大学 1 名、北海道大学 1 名）、私立大学 49 名（慶應義塾大学 20 名、上智大学 5 名ほか）
備考	特に HP でキャリア教育を謳ってはいない。しかしながら有名校ということもあって雑誌で取り上げられたり、校長がインタビューを受けたりしているので、そこで言及されていることがある。

②女子学院中学校・高等学校 (<http://www.joshigakuin.ed.jp/>)

場所	東京都
設立年	1870
偏差値	75
学校の種類	普通
目的	生徒が学ぶこと自体に喜びと意味を見出し、自ら学ぶ方法を身につけ、自分のやりたいことを見つけて進路を切り開いていくのを手助けすること
期間	中学では総合的な学習が年間 70 時間ずつ。高校では 1 年時は週に 2 時間、3 年時は週 1 時間。
方法	「礼拝、行事、講演会を通して、自分の生き方を考える。自分の興味のあり方をさぐり、将来にどうかすか、どんな可能性があるかを考える。卒業後はほとんど全員が進学を希望し、幅広い分野に進みます。」中学 3 年から少しずつ進路選択を視野に入れた授業やホームルーム活動を行う。高校 1 年制では各分野で活躍する卒業生を招き、「卒業生の話を聞く会」を数回行う。高校 2 年では卒業後 2, 3 年の学制を招き、「大学生の話を聞く会」を行い、将来に向けての画家選択の一助としている。課外活動やクラブの合宿のための研修施設がある。
進路先	分野別進路のみ。ほぼ全員が四年制大学進学。その他は 1.8%だが浪人だと考えられる。国公立や難関私大の合格者が目立つ。東京大学 30 名合格。
備考	HP やその他をあたっても、特にキャリア教育を売りにしてはいない。有名四年制大学進学が主な進路先なので、特に個性や生き方に焦点をあてて教育をする必要は見出していないようである。宗教教育を通して生き方を教えているのではないか。

③品川女子学院中等部・高等部 (<http://www.shinagawajoshigakuin.jp/index.html>)

場所	東京都
設立年	1926
偏差値	64
学校の種類	普通
目的	28 才になったときに、社会で活躍している女性を育てます。
期間	中学 1 年生からライフデザイン教育として。
方法	2003 年から 28 プロジェクトをスタート。起業とのコラボレーション、地域、日本、社会、世界の 5 つのセクションごとに活動を行っていく。目的は出産後、会社に復帰しても前のような地位や役割には必ずしも就くことが出来ないという現状を受けて、専門性の高い職業を視野に専門職大学院などへの進学をめざした学習指導、社会で活躍できる高いコミュニケーション能力の育成、国際舞台での英語能力の向上などである。起業体験プログラムとして企業とのコラボレーションを通して、商品やアプリ開発などに取り組む。その他、体験学習や施設見学会、進路の個別面談などを行う。教育成果、生徒の目的意識や学習意欲は向上していると好評である。参考 http://www.study1.jp/special/kyoiku_shinajyo.html

進路先	国公立大学 16 名、早慶上智東京理科大 79 名、MARCH152 名、その他私立大、私立女子大など。
備考	28 プロジェクトへの改変 7 年で入学希望者も 60 倍に増える。校長も注目され、評判は上々。

④法政大学女子高等学校(<http://www.hosei.ac.jp/general/jyoshi/index.php>)

場所	東京都
設立年	1933
偏差値	65
学校の種類	普通
目的	豊かな個性をもつ自立した女性
期間	高校 1 年時から卒業まで。
方法	進路ガイダンスや付属校の利点を生かした大学説明会、キャンパス見学会、進路面談など。1 年時にキャリアフォーラム、OG による高校時代の過ごし方やその後の生き方、進路ガイダンス、キャンパス見学、TOEIC などの資格取得など。2, 3 年生は特定のテーマを 1 年間かけて学習するという独自の科目を設置。必要に応じて公害研究や研修旅行がある。2 年時に学部ガイダンス、進路講演会、進路ガイダンス、キャンパス見学、他大学神学者向けガイダンスなど。3 年時に進路希望調査、進路ガイダンス、キャンパス見学、法大進路志望調査、個別面談など。
進路先	四年制大学(法政 88.7%、他大学 10.1%)短大 0~2 名、専門学校 1~3 名、その他 2 名程)
備考	前提は進学。法政大学への推薦資格保持のまま、その他大学の併願が可能。

⑤田園調布学園中等部・高等部(<http://www.chofu.ed.jp/index.html>)

場所	東京都
設立年	1926
偏差値	64
学校の種類	普通
目的	明確な進路目標を確立して、それに向かって努力していけるように支援。
期間	土曜プログラム、ホームルームなど。
方法	精進日記、PD(Possibility Dock)法による面談を受けることで自己理解を深める。職場訪問や大学の先生による特別講義受講、各大学の学部・学科や入試の仕組み研究、進路講演会などによって情報を得、具体的な進路実現を目指す。第Ⅰ期(中 1)を基礎育成期として「自分を発見する」、第Ⅱ期(中 2~高 1)を個性新長期として「自分を再認識する」「社会や職業を知る」「学部・学科を研究し、文理を選択する」、第Ⅲ期を発展充実期として「大学を研究する」「志望校、受験校を決定する」ことを目標に進路指導を行っている。
進路先	国公立現役合格者数 23 名、私立大学現役合格者数 179 名

備考	
----	--

⑥日本女子大学附属中学校/高等学校 (<http://www.jwu.ac.jp/hsc.html>)

場所	東京都
設立年	1901
偏差値	68
学校の種類	普通
目的	自念自動。自ら考え、自ら学び、自ら行う。
期間	総合的な学習。1年生から。
方法	中学1年時は School Time として自校の歴史や周辺地域について調査・研究。2年時に東北学(宮沢賢治朗読会、東北について調べようなど)と国際理解(国際機関で働く方による講演会・交流会)について。3年時はキャリア～社会と私～をテーマに、職業調べや職業人との触れ合いを行う。
進路先	359名中288名は日本女子大学へ。他大学は52名、その他19名。他大学へ行く学生は、理系に偏っている模様。進学先は有名どころばかり。日本女子大学との併願も可能。
備考	学校で初めて自治活動を取り入れた学校。アフガニスタン女性教育支援なども行う。寮あり。

第4群(偏差値やや高い×初年度納入費低い)

①山梨英和中学校・高等学校 (<http://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/jsh/>)

場所	山梨県
設立年	1889
偏差値	54
学校の種類	普通、ミッションスクール(キリスト教)
目的	生徒たちが大人になったとき、母親になったとき、社会で自立していくための人間教育を、中高6年間の女子教育を通して実現すること
期間	中高の6年間をかけて

方法	<p>中高一貫で、6か年教育の中に女性学を盛り込む。中学1年時は「自分の性を知る～体、心、命」、中学2年時は「女性の生き方」、中学3年時は「女性の生き方～社会的・歴史的視点から」、高校1年時は「女性と病」、高校2年時は「ジェンダー」「男女共同参画社会」、高校3年時は「自立した女性を目指して」をテーマにしている。またICT教育にも力を入れ、CAI教室にiMacやiPadを完備し、最新のソフトを活用した授業を展開している。</p> <p>進路指導をキャリアスタディと呼んでおり、大学進学や就職に有利か不利かということとは区別している。中学1,2年生は「英和の歴史」「国際教育」「自由研究」、中学3,高校1年生は「進路指導」とともに高校カリキュラムを見越した進路指導を通して、中高の連携が生かされた進路指導。高校2,3年生はロングホームルーム計画や模擬試験指導の中で多くの「進路指導」がなされ、進路指導と合わせてさまざまな「学習指導プログラム」も展開。例えば、論文指導、適性検査学習会、スタディーサポート、夏期講習会、面接マナー講座、職場体験、希望に合わせた大学模擬授業、センタープレテスト等。</p>
進路先	国公立19名(分野は様々)、私立大学127名、短期大学6名、海外進学2名、専門学校10名。
備考	これまでみた中で、一番バラエティに富んだ進路に進んでいるという印象。女子に特化した授業研究。

②大阪聖母女学院中学校/高等学校 (<http://www.seibo.ed.jp/osaka-hs/>)

場所	大阪府
偏差値	54
学校の種類	普通(中学では文理総合、英数特進コース、高校では文理総合、スーパー英数コース)、カトリック
目的	聖母で育まれた学びを糧に、多くの生徒が夢を叶え、希望の進路へ
期間	特になし。中高一貫。
方法	国際教育、海外研修、情操教育(宗教・芸術・福祉教育)、教育サポートなどを行う。英検、TOEICの資格テストあり。短い海外研修、交換留学プログラムなど。国際・福祉プログラムとして文化交流を目的としたフランスへの短期留学、タイのボランティア留学も。進路指導に関しては高大連携企画として大学を招いての入試説明会、模試の活用、放課後講習などを行う。
進路先	国公立6名、医・歯・薬25名、関関同立31名、産近甲龍16名、三女子大15名。豊富な指定校、特別推薦枠。
備考	「多くの生徒が、国公立大学や難関私立大学をはじめ希望の大学へ進学しています。」ということからも分かるように、進学がメイン。私立大学や短大などは推薦も多数あるため、プレッシャーはないのではないかな。

③仙台白百合学園中学・高等学校 (<http://sh.sendaishirayuri.net/>)

場所	宮城県
設立年	1893

偏差値	54
学校の種類	普通(高校では総合進学、特別進学、英語・留学コースあり)、カトリック系
目的	6年間を通して知性、国際性、感性をじっくりと育みながら、あなたにしかない「タレント＝才能」を見つけ、それをピカピカにみがきあげる道のり。「自分をいかし、世界とつながる」
期間	土曜日に総合学習の時間
方法	「つながることができる力」を成長に合わせて養う教育。グローバルな視野、コミュニケーション力、行動力、奉仕の心の4つを柱にする。文化体験、ボランティア等の現地学習。将来を見据えたキャリア教育、平日課外講習、選択科目(総合進学コース)、放課後の課外講習や勉強会、長期休暇中の勉強合宿(特別進学コース、英語・留学コース)、キャリア教育講演会なども行っている。国際理解教育の一環としてフィリピン・ボランティア・スタディーツアー、韓国研修、イギリスへのリーダー養成研修など。英語検定試験の取得も。
進路先	国公立17名、私立大学231名、短期大学6名、海外大学5名、専門学校17名、就職1名。
備考	コース別の授業を大切にしている様子。留学コースでは1年の語学留学を単位として認めている。指定校推薦あり。

④大阪信愛女学院中学校・高等学校(<http://www.osaka-shinai.ac.jp/>)

場所	大阪府
設立年	1884
偏差値	52
学校の種類	普通(高校は文理S、文理、総合コースに分かれている。総合は中でも看護医療、食物科学、発達教育に分かれている)、カトリック
目的	女性が支える日本の未来、生きる力＝学ぶ力、「社会で活躍できる人づくり」
期間	中学から活動はあるが、進路指導プログラムとして組まれているのは高校1年時より。
方法	文化体験、ボランティア等の現地学習。将来を見据えたキャリア教育、平日課外講習、選択科目(総合進学コース)、放課後の課外講習や勉強会、長期休暇中の勉強合宿(特別進学コース、英語・留学コース)、キャリア教育講演会なども行っている。
進路先	国公立大学9名、私立大学(関関同立58名、その他四年制大学219名、短期大学24名(内、大阪信愛女学院短期大学は14名)、専門学校5名。
備考	幼稚園(男女共学)から短期大学まである。カトリック色が強い。

⑤不二女子高等学校(<http://www.fujijyoshi.ed.jp/>)

場所	千葉県
設立年	1946
偏差値	51
学校の種類	普通

目的	進路指導＝生き方の指導
期間	特になし。高校の3年間。
方法	進路を考えるには、まず自分を理解し、適性を知ること。教科の学習、学校行事活動、部活動などを通して、自己を見つめ、自らの進路を築いていく環境作りに努めている。小規模校の家庭的な雰囲気の中で、生徒との信頼関係に基づいた指導を行う。進学、就職の進路指導は、全教員が担当。小論文の添削指導を行うとともに、全教員が面接指導。各種資格の取得を奨励。
進路先	進学者 80%、就職者 20%
備考	基礎学力を身に付け、学ぶ大切さと喜びを知る。将来の進路、自らの生き方を考え、社会で必要な教養を高める。この2つが度々謳われている。

⑥宇都宮海星女子学院中学校・高等学校 (<http://www.u-kaisei.ed.jp/>)

場所	栃木県
設立年	1954
偏差値	44
学校の種類	普通、ミッションスクール
目的	ゆたかな人間性を育みながら、大学現役合格を目指す指導の実践
期間	基本的には中高一貫教育。キャリア教育は特に高校3年間。
方法	中学でのキャリアガイダンス、心の学び、選択教科などの他、高校での3年間を「基礎期」「応用機」「発展期」の3つのステージと捉え、卒業後の大学進学に向けて基礎から応用まで、生徒一人一人の学力伸長と実力養成を図る。高校1年では共通クラス、2年から国公立・難関私大コース、総合進学コースに分けて授業を行う。希望者への1年留学、校内講習、土曜授業、宇都宮大学の公開授業に参加できる。
進路先	全体の85%が私立大学、15%が国公立大学
備考	キリスト教の精神による育成と、大学進学に重きを置いている。その他のミッションスクールと似通っている様子。

<謝辞>

この研究を卒業論文として形にすることが出来たのは、卒業論文指導教員の小熊英二教授が終始熱心なご指導を下さったからです。小熊教授には研究のご指導のみならず、様々なご相談に乗っていただきました。小熊英二研究会に所属させていただいた1年半という期間は私の人生の糧です。小熊英二教授には深く感謝いたします。また日常の議論を通じて様々なアドバイスを下さった小熊英二研究会の皆様にも感謝いたします。卒業論文制作にあたって、様々なご支援を頂いたデザイン思考研究所の柏野氏、木村氏、梶氏、金畑氏、鈴木氏、岡氏、さらに支えて下さった松尾氏、井原氏、三井氏、新保氏、高木氏、足立氏にもここに感謝の意を表します。ご協力して頂いた皆様へ心から感謝の気持ちとお礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。

<参考文献>

- ・生駒俊樹 (2010) 『実践 キャリアデザイン 高校・専門学校・大学』ナカニシヤ出版
- ・浦上昌則 (2010) 『キャリア教育へのセカンド・オピニオン』北大路書房
- ・ウルリッヒ・ベック(1988) 『危険社会』二期出版
- ・尾崎博美(2009) 「GEMC journal」『男女共学・男女別学をめぐる議論の課題と展望—教育目的・内容を構築する視点としての「ジェンダー」に注目して』 pp.42-50 東北大学
- ・学研教育出版編 (2012) 『2013年入試用有名私立女子校&共学校 (首都圏版)』学研教育出版
- ・川口俊明 (2006) 『学力格差と「学校の効果」—小学校の学力テストの分析から—』『教育学研究』第73巻第4号, 350-362頁
- ・錦織与志二 (2007) 『キャリア教育への招待』東洋館出版社
- ・日本キャリア教育学会 (2008) 『キャリア教育概論』東洋館出版社
- ・ピエール・ブルデュー (1990a) 『ディスタンクシオン I』藤原書店
- ・—— (1990b) 『ディスタンクシオン II』藤原書店
- ・本田由紀 (2005) 『若者と仕事「学校経由の就職」を超えて』東京大学出版会
- ・本田由紀 (2005) 『多元化する「能力」と日本社会—ハイパー・メリトクラシー化のなかで』NTT出版株式会社
- ・宮崎冴子 (2007) 『キャリア教育 理論と実践・評価』雇用問題研究会
- ・吉田辰雄 (2005) 『キャリア教育論—進路指導からキャリア教育へ』文憲堂
- ・文部科学省 (2013) 『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第一次報告書』国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
- ・渡辺三枝子, 鹿島研之助, 若松養亮 (2010) 『学校教育とキャリア教育の創造』学文社

- ・朝日新聞デジタル (2011) 『単身女性、3人に1人が貧困 母子世帯は57%』
<<http://www.asahi.com/special/08016/TKY201112080764.html>> (2013/7/16 アクセス)
- ・Excite.教育『中村の挑戦、「新館 LADY」が完成 自主自立型の女性を育成する日本初の施設 中村中学校』<http://education.excite.co.jp/school/girls/rid_E1337760003081/> (2013/7/16 アクセス)
- ・Excite.教育『「品性と知性」を身につけ、未来を切り開く力を育てる』
<http://education.excite.co.jp/school/girls/rid_E1337752841081/> (2013/7/16 アクセス)
- ・加川紀代子 (2009) 『新校長インタビュー (175) 学習院女子中等科・女子高等科』一般社団法人全私学新聞
<http://zenshigaku-np.jp/news_01.php?y=2009&m=2&d=23&newsid=769&archive=true> (2013/7/16 アクセス)
- ・角田浩子 リクルート(2011) 『高校のキャリア教育の現状』
<http://souken.shingakunet.com/college_m/2011_RCM168_38.pdf> (2013/7/16 アクセス)
- ・株式会社能率手帳プランナーズ『私立中村中学校・高等学校自己管理を徹底し、受験に勝つ生徒を育成!』<http://www.noritsutecho-planners.co.jp/casestudy/case_scl_3.html> (2013/7/16 アクセス)
- ・Garbage NEWS.com (2010) 『雇用不況で共働きにも変化が?…共働き世帯の増え方をグラフ化してみる』<<http://www.garbage news.net/archives/1500591.html>> (2013/7/16 アクセス)
- ・合同会社ジーナス (2012) 「高校受験ナビ」<<http://www.zyukun.net/term/gakuhi/>> (2013/7/16 ア

クセス)

- ・ 中学受験スタディ『注目の中学校特別企画 「教育の特徴」 徹底解剖！～品川女子学院中等部の「教育方針」の巻～』<http://www.study1.jp/special/kyoiku_shinajyo.html> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 日本経済新聞 (2012) 『単身女性の 32% 「貧困」、男性は 25% 人口問題研 20~64 歳』<http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG08001_Y2A200C1CR0000/> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 文部科学省 (2013) 『今後の学校におけるキャリア教育の在り方について PART1 総論編前編』<http://www.youtube.com/watch?v=-_XPYKtW4Iw&nofeather=True> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 文部科学省『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申案)』<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1300202.htm> (2013/7/16 アクセス)

<各校ホームページ>

- ・ 足利短期大学附属高等学校<<http://www.ashikaga-jc-h.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 白藤学園 奈良女子高等学校<<http://www.shirafuji.ac.jp/high/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 大阪成蹊女子高等学校<<http://high.osaka-seikei.ac.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 京都精華女子中学校/高等学校<<http://www.k-seika-girl.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 中村中学校・高等学校<<http://www.nakamura.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 白鵬女子高等学校<<http://www.hakuhojoshi-h.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 柴田女子高等学校<<http://shibajo.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 進徳女子高等学校<<http://www.shintoku.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 函館白百合学園中学校・高等学校<<http://www.hakodate-shirayuri.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 藤ノ花女子高等学校<<http://www.fujinohana-h.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 鈴峯女子中学校・高等学校<<http://www.suzugamine.ac.jp/high/index.html>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 浜松海の星高等学校<<http://www.uminohoshi-h.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 学習院女子中等科・高等科<<http://www.gakushuin.ac.jp/girl/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 女子学院中学校・高等学校<<http://www.joshigakuin.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 品川女子学院中等部・高等部<<http://www.shinagawajoshigakuin.jp/index.html>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 法政大学女子高等学校<<http://www.hosei.ac.jp/general/jyoshi/index.php>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 田園調布学園中等部・高等部<<http://www.chofu.ed.jp/index.html>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 日本女子大学附属中学校・高等学校<<http://www.jwu.ac.jp/hsc.html>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 山梨英和中学校・高等学校<<http://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/jsh/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 大阪聖母女学院中学校/高等学校<<http://www.seibo.ed.jp/osaka-hs/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 仙台白百合学園中学・高等学校<<http://sh.sendaishirayuri.net/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 大阪信愛女学院中学校・高等学校<<http://www.osaka-shinai.ac.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 不二女子高等学校<<http://www.fujijyoshi.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)
- ・ 宇都宮海星女子学院中学校・高等学校<<http://www.u-kaisei.ed.jp/>> (2013/7/16 アクセス)